







つぎ まつた ながれ
 願くある同人が
 自筆の影り
 証書と成り
 樹合いか
 まの只おまが
 公府をさる

● 拘束にありはく 控まを

↑ ちぬりと
 殺されーが
 「あやぶるを
 けりまきおり
 羨みどた
 さきのけ
 弟守ねは
 とらふれがたか
 ぬよに 旅ふ
 せうねと今う
 けい幻の
 けと 情い



海にわたりてきき
 ありき 借係がね
 ありとて 田々のすに
 樹合とをと 所着
 多し 迷惑
 が 累ハ支板
 要に 難云とて
 取合ぬ 由な 後さ
 者の 始末と 法面
 志を 違ふ 同和の 家
 悪一海へ 一かて 逃に 地
 母如されお 綱へ ありと 考後
 不揚い あり申一 互て

遠けられるとおつけが 多し
 原要と 成まが 不良の 不業と
 ぬいー 証書と 成りー
 ち友人と 捕縛せん とな

△ 自筆の 証書と
 △ けあめ ありと 何ゆ
 知れぬと 如何に
 懐しぬると 情

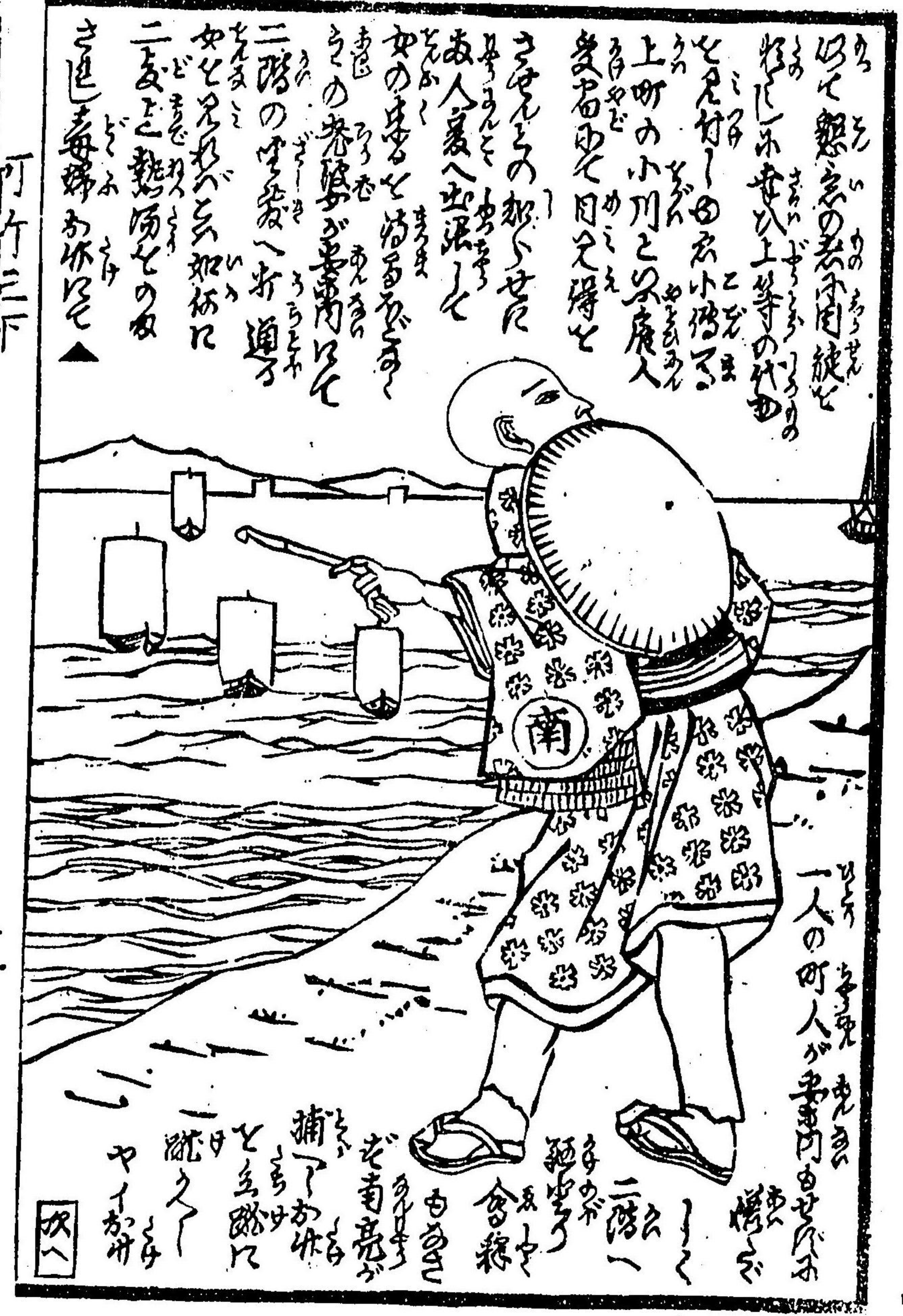
何れお 証書
 何れお 証書
 十二年の十一月 熱
 海の 陽治 不保書
 とを しぬと 意



彼の身山町
の貸せ袋
申様と
舟へは
去る小堀様と
一人抱へてゆくと
将河 東京に送返
借小堀様より出入の
後 医士小西南亮と

▲ 東の舟に
三多の舟と
りあとも
南亮と兄合す
面とおゆい
オヤ
と行く
小堀と
美以進ん

南亮が
舟へ引合は長
舟へ引合は長
舟へ引合は長



以て懸念の老小用紙
舟に小舟以上等の舟
と見付し由小舟
上町の小川と小舟
後者由之目元得と
さかんとの如くせ
ぬ人入へ出浪し
女の身とせはる
うの春浪が
二階の舟へお通
女と名れへお如
二と懸念の舟
さし毒婦お休

一人の町人が
二階一
合
捕
ヤイ



ついでに男のあつてを言ひ
あれはちくよりい
きとて執りて
サア一雨の分署へ
来いは天衝り
めがと声するに
罵る強きと
おつひ巡行
の巡査が何
夕下ゆと云ふふと
貴い貴い七がは奴の形と
の大衝りゆく既の
命と捨る而も人の長思

● 茨原知り
△ 遠に拘引
おれ
申し立て
世も花を
多しと云ふんと
おれ
申し立て
世も花を
多しと云ふんと



あつて
きとて
めの上をと持りおさんと
法方と尋
ねる内今日
あつて
入る而もチラリ
とえうけ好
さして後、まじ
さのあつての始者と
さ大男とて言ひて巡
査の身取さぬりて
せしおけとりのい

捕務方と依頼の
ある者お
おれ
申し立て
世も花を
多しと云ふんと

